

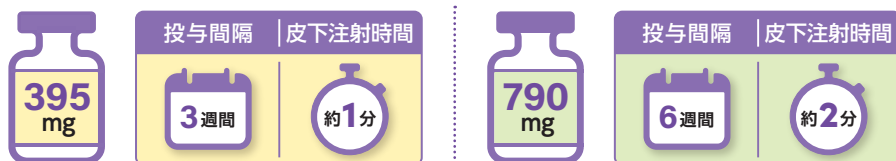
キイジェクト®による治療を受けられる患者さんへ

キイジェクト®は、免疫チェックポイント阻害薬である「ペムブロリズマブ」に皮下に薬が広がりやすくする成分（ペラヒアルロニダーゼ アルファ）を配合した皮下注射製剤です。ペムブロリズマブの投与方法は、皮下注射によるキイジェクト®と点滴によるキイトルーダ®があります。いずれもがん細胞によって抑えられていた免疫機能を再び活性化させるため、免疫がはたらき過ぎることによる副作用があらわれる可能性があります。症状のあらわれ方には個人差があり、発見が遅れると重症化することや継続的な治療が必要となる場合があります。また、副作用の発現時期はさまざまで、本剤の治療終了後に発現することもありますので注意が必要です。治療を続けていくために、「どのような副作用が起こりやすいのか」を正しく理解しておきましょう。

キイジェクト®の治療について、疑問点や、さらに詳しく知りたいことなどがありましたら、担当の医師や看護師、薬剤師にご相談ください。

●投与スケジュール

3週間または6週間を1コースとして、患者さんの体の状態を見ながら投与を繰り返します。皮下注射時間は、3週間間隔にて投与する場合は約1分、6週間間隔の場合は約2分です。



※治療スケジュールは主治医の指示に従ってください。

! 他の診療科を受診する時には、キイジェクト®の治療を受けていることを必ず知らせてください。
過去にキイトルーダ®による治療を受けた患者さんは、そのことも伝えてください。

キイジェクト®の副作用として予測される症状

頭痛

脳炎・髄膜炎、溶血性貧血、赤芽球癆など

意識がうすれる

1型糖尿病、脳炎・髄膜炎など

見え方の異常

ぶどう膜炎

ものが二重に見える
重症筋無力症

まぶたが重い・顔の筋肉

が動きにくくなる

重症筋無力症

口の中や喉が

渇きやすい・多飲

1型糖尿病

歯ぐきや口内の出血
免疫性血小板減少症、
血球貪食症候群

くしゃみ

インフュージョンリアクション

くちびるのただれ

重度の皮膚障害

咳

間質性肺炎患、結核

たん・血たん

結核、血管炎

胸の痛み

心筋炎

息切れ・呼吸困難

間質性肺炎患、
ギラン・バレー症候群、
重症筋無力症、
インフュージョンリアクション、
心筋炎、溶血性貧血、
赤芽球癆など

吐き気やおう吐

大腸炎・小腸炎、
副腎機能障害、
脳炎・髄膜炎、
1型糖尿病、
重度の胃炎など

食欲不振

劇症肝炎・肝不全、
肝機能障害・肝炎、
下垂体機能障害、
副腎機能障害、
重度の胃炎など

全身

発熱

間質性肺炎患、
大腸炎・小腸炎、
腎機能障害、
重度の皮膚障害、
脳炎・髄膜炎、
無顆粒球症、
血球貪食症候群、
結核など

疲れやすい・だるい

大腸炎・小腸炎、
劇症肝炎・肝不全、
肝機能障害・肝炎、
甲状腺機能障害、
副腎機能障害、
結核など

黄疸

劇症肝炎・肝不全、
肝機能障害・肝炎、
硬化性胆管炎、脾炎、
溶血性貧血

発疹などの皮膚症状

インフュージョンリアクション、
重度の皮膚障害、
硬化性胆管炎、
血球貪食症候群など

点状や斑状のおおあざ

免疫性血小板減少症、
血管炎

血圧の左右差

血管炎

体重の減少

副腎機能障害、
1型糖尿病、結核など

体重の増加

甲状腺機能障害

むくみ

腎機能障害、心筋炎

けいれん

脳炎・髄膜炎、
血球貪食症候群

しびれ

ギラン・バレー症候群、
血管炎

下痢

大腸炎・小腸炎など

ネバネバした便・血便

大腸炎・小腸炎、血管炎

油が浮いたり、すっぱい
においのする柔らかい

便が出る

脾外分泌機能不全

便秘

甲状腺機能障害、
副腎機能障害、脊髄炎

腹痛

大腸炎・小腸炎、脾炎、
1型糖尿病、
硬化性胆管炎、血管炎

お腹が張る

劇症肝炎・肝不全、
脾外分泌機能不全
など

トイレが近い

1型糖尿病

血尿

腎機能障害、
免疫性血小板減少症、
血管炎

尿量の減少・

尿が出にくい

腎機能障害、脊髄炎

手足に力が入らない

ギラン・バレー症候群、
筋炎・横紋筋融解症、
重症筋無力症、脊髄炎、血管炎

手指のふるえ

甲状腺機能障害など

記載の症状やその他気になる
体調の変化がある場合は、
すぐに医師や看護師、薬剤師に
ご連絡ください。



治療を続けていくために、次に挙げるキイジェクト®の注意すべき副作用と症状をしっかりと確認しておきましょう。

特に注意すべき副作用	代表的な症状 ▼すぐに担当の医師に連絡しましょう
間質性肺疾患 二酸化炭素と酸素を交換する(ガス交換)場である肺の肺泡と肺泡の間に炎症が起こり、肺の組織が硬くなってガス交換がうまくできなくなることがあります。炎症が広がり硬くなった肺の組織が増えれば、呼吸がしにくくなり、命にかかわることがあります。	●階段や坂道を上ったり、少し無理をする と息切れがする・息苦しくなる ●空咳(たんが出ない咳) ●発熱 風邪によく似た症状です。「風邪」と自己判断しないようにしてください。
大腸炎・小腸炎・重度の下痢 大腸や小腸の粘膜に炎症が起こり、出血したり、重度の下痢(回数の目安:1日4回以上)があらわれることがあります。また、腸の炎症が重症化すると、大腸や小腸に穴があいたり、腸閉塞が起きたりするケースも存在します。症状が進行すれば命にかかわることがあります。	●下痢(軟便)あるいは、排便回数が増えた ●ネバネバした便や血便 ●刺すような腹の痛み ●吐き気・おう吐 ●発熱 ●疲れやすい、だるい 最初に下痢があらわれることがあります。下痢の原因によって治療法が異なります。自己判断による下痢止めの使用は避けてください。
重度の皮膚障害 体中が赤く腫れたり、発疹や水ぶくれがあらわれることがあります。また、ひどい口内炎、まぶたや眼の充血、発熱が起こることがあります。	●全身に紅斑や水ぶくれが出る ●ひどい口内炎 ●くちびるのただれ ●体がだるい ●まぶたや眼の充血 ●発熱 ●粘膜のただれ ●かゆみ
神経障害(ギラン・バレー症候群等) 両側の手や足の力が入らなくなり、しびれ感が出た後、急速に全身に広がり進行します。また、物が二重に見えたり、呼吸が苦しくなることもあります。	●手足に力が入らない ●しびれ ●疲れやすい、だるい ●食べ物が飲み込みにくい ●呼吸が苦しい ●めまいや頭痛
劇症肝炎・肝不全・肝機能障害・ 肝炎・硬化性胆管炎 自覚症状はほとんどなく、検査値の異常によって見つかることが多い副作用です。症状が進行すれば命にかかわることがあります。	●疲れやすい、だるい ●発熱 ●白眼や皮膚が黄色くなる(黄疸) ●発疹 ●かゆみ ●食欲不振 ●腹痛 ●吐き気・おう吐 ●お腹が張る 初期の頃は無症状ですが、上記のような症状で見つかることもあります。

特に注意すべき副作用	代表的な症状 ! すぐに担当の医師に連絡しましょう
重症筋無力症 筋力が低下し、まぶたが垂れ下がってきたり、食べ物が飲み込みにくくなったり、呼吸困難が起きたりすることがあります。 	● 疲れやすい、だるい ● まぶたが重い ● ものが二重に見える ● 顔の筋肉が動きにくくなる ● 手足・肩・腰などに力が入らない ● ろれつが回らなくなる ● 呼吸が苦しい ● ものが飲み込みにくい ● ものが嚙みにくい ※症状が朝と夕方異なる
心筋炎 症状が軽い場合もあれば重い場合もあり、また軽くても重くなることがあります。急性の場合、命にかかわる場合があります。	● 疲れやすい、だるい ● 胸の痛み ● 息切れがする ● 筋肉痛 ● 手足のむくみ
脳炎・髄膜炎・脊髄炎 頭痛、おう吐、意識障害、けいれん、項部硬直(首の後ろが痛くなり曲げられなくなる)などの症状があらわれます。 	● 発熱 ● 頭痛 ● 吐き気 ● うなじがこわばり首を前に曲げにくい ● 行動や言動の異常 ● 意識がうすれる ● けいれん ● 手足に力が入らない ● 尿が出にくい ● 便秘 ● 感覚が鈍くなる また、多発性硬化症の悪化、視神経脊髄炎スペクトラム障害により、見えにくい、見える範囲が狭いなどの症状があらわれることがあります。
重篤な血液障害 めんえきせいけつしょうばんげんしょうしやう 免疫性血小板減少症 出血を止める役割の血小板が減少し、出血しやすくなったり、出血が止まりにくくなったりします。	● 皮膚にみられる点状や斑状のおおあざ(押しても消えない) ● 歯ぐきや口内の出血 ● 鼻血 ● 月経過多 ● 血尿
やうけつせいひんけつ せきがきゅうろう 溶血性貧血、赤芽球癆 赤血球が減少することで、全身に酸素が十分いきわたらなくなり、貧血症状があらわれます。	● めまい ● 疲れやすい、だるい ● 動悸・息切れ ● 頭痛 ● 顔が蒼白あおくなる ● 白眼や皮膚が黄色くなる(軽い黄疸)
むかりゅうきゅうしやう 無顆粒球症 細菌を殺す働きをもつ好中球が極端に減少することにより、感染症にかかりやすくなります。発熱を起こした場合には命にかかわることがあります。	● 発熱 ● さむけ ● のどの痛み 

特に注意すべき副作用	代表的な症状 ⚠️ すぐに担当の医師に連絡しましょう
内分泌障害 甲状腺機能障害 体の新陳代謝を高めるホルモンを作る甲状腺(内分泌器官)に障害が起こり、血中甲状腺ホルモン値が上昇したり、低下することで症状があらわれます。また、自身への関心の低下がみられる場合があるので、家族の気づきが重要です。	〈 甲状腺ホルモン値が 上昇することであらわれる症状 〉 ● 食事の量にかかわらず体重の減少 ● 脈拍の乱れ ● 発汗 ● 手指のふるえ 〈 甲状腺ホルモン値が 低下することであらわれる症状 〉 ● 疲れやすい ● おっくう・めんどろ ● 便秘 ● 食事の量にかかわらず体重の増加 ● 食欲不振 ● 脈が遅くなる ● 寒がり
下垂体機能障害 さまざまなホルモンのはたらきをコントロールする脳の下垂体(内分泌器官)に障害が起こり、下垂体ホルモンが低下することで症状があらわれます。	● 疲れやすい、だるい ● 食欲不振 
副腎機能障害 副腎由来のホルモンが低下し、血糖値が下がることがあります。急性の場合は意識がうすれることがあります。	● 疲れやすい、だるい ● 食欲不振 ● 血圧の低下 ● 意識がうすれる ● 吐き気・おう吐 ● 発熱 ● 便秘 ● 体重減少
1型糖尿病 膵臓からインスリンが分泌されなくなって、慢性的に血糖値が高くなることがあります。特に急激に血糖値が上昇した場合には命にかかわることがあります。	● 口の中や喉が渇きやすい ● 水分摂取がふだんより多い ● トイレに近い ● 尿量がふだんより多い ● 疲れやすい、だるい ● 吐き気 ● 腹痛 ● 意識がうすれる
腎機能障害 腎臓に炎症が起こり、機能が低下することがあります。症状が進行すれば命にかかわることがあります。	● むくみ ● わき腹や背中の痛み ● 発熱 ● 血尿 ● 尿量の減少 ● 吐き気・おう吐 初期の頃は無症状のことも多いですが、排尿の回数や量、尿の色の变化から見つかることもあります。
膵炎・膵外分泌機能不全 膵臓に炎症や消化機能の低下が起こることがあります。腹痛、背中の痛みなどが起きます。	● 腹痛 ● 疲れやすい、だるい ● 背中が痛い ● 白眼や皮膚が黄色くなる(黄疸) ● 油が浮いたり、すっぱいにおいのする 柔らかい便が出る ● 下痢 ● 体重減少 ● お腹が張る 初期の頃は無症状ですが、上記のような症状で見つかることもあります。 
筋炎・横紋筋融解症 筋肉に炎症が起こる病気です手足や体幹の筋力が低下します。	● 疲れやすい、だるい ● 全身の筋肉がこわばる ● 筋肉が痛む ● 手足に力が入らない(立ちあがりにくい) ● 手足のしびれ ● 発熱 ● 尿の色が赤褐色になる

特に注意すべき副作用	代表的な症状 ⚠️ すぐに担当の医師に連絡しましょう
重度の胃炎 胃に重度の炎症が起こることがあります。 吐き気やみぞおちの痛みなどが起きます。	● 吐き気・おう吐 ● みぞおちの痛み・不快感 ● 食欲不振 ● ものが飲み込みにくい
ぶどう膜炎 眼の中に炎症が起こることがあります。 見え方のほかに、フォークト・小柳・原田病による全身の異常（頭痛、耳鳴り、白斑、白髪など）があらわれることがあります。	● かすみがかかったように見える ● 虫が飛んでいるように見える ● まぶしく感じる ● 見えにくい
血管炎 血管に炎症が起こる病気です。頭痛、発熱、倦怠感、体重減少、関節痛などの全身症状と、炎症が起きた血管の場所により、さまざまな症状があらわれます。	臓器に出る症状 ● 皮膚:点状や斑状のあおざ ● 血管:血圧の左右差 ● 腎臓:血尿 ● 肺:血たん ● 消化管:腹痛、血便 ● 神経:しびれ、手足に力が入らない
けつきゅうどんしよく 血球貪食症候群 白血球や赤血球、血小板などが減少することにより、さまざまな症状があらわれます。症状が進行すれば命にかかわることがあります。	● 発熱 ● 疲れやすい、だるい ● けいれん ● 皮膚にみられる点状や斑状の出血 ● 腹部のはり ● 顔のむくみ ● 下痢
結核 結核菌という細菌により引き起こされる感染症で、主にかぜのような症状（咳、発熱など）があらわれます。症状が進行すれば命にかかわることがあります。	● 咳 ● たん・血たん ● 発熱 ● 疲れやすい、だるい ● 体重減少 ● 寝汗をかく 
インフュージョンリアクション ● 投与中の注意点（投与中に起こりうる副作用） 投与したときに起こることがある体の反応で、過敏症やアレルギーのような症状があらわれます。	● 皮膚のかゆみ ● じんま疹 ● 声がかすれる ● くしゃみが出る ● 喉のかゆみ ● 息苦しい ● 胸がどきどきする ● 意識がうすれる ● めまい・ふらつき ● 血圧の低下 ※ 投与終了後、1～2時間後に症状があらわれる場合があります。